

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター一年報
(第4号)

2010年版

'10 ANNUAL REPORTS
TOTTORI UNIVERSITY AVIAN ZONOSIS RESEARCH CENTER



鳥取大学農学部
附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
AVIAN ZONOSIS RESEARCH CENTER
(AZRC)

目 次

1. ご挨拶	1
2. 人員構成と各研究部門における研究内容	2
(1) 病態学研究部門	2
(2) 疾病管理学研究部門	2
(3) 分子疫学研究部門	3
3. 研究活動	4
(1) 病態学研究部門	4
原著論文	4
学会発表	4
(2) 疾病管理学研究部門	5
著 書	5
原著論文	5
総 説	7
学会発表	7
(3) 分子疫学研究部門	8
著 書	8
原著論文	8
総 説	9
学会発表	10
4. 学術賞等の受賞	11
5. その他の研究活動	11
(1) 国際共同研究・共同調査	11
6. 広報活動	11
(1) 講演等	11
(2) 新聞雑誌等掲載	13
(3) TV取材出演等	15
7. 社会貢献	16

1. ご挨拶

センター長 伊藤 壽啓

本センターは昨年度末で5ヶ年の時限付の文部科学省特別教育研究経費事業が終了し、本年度からは2期目の新たなプロジェクト「鳥由来人獣共通感染症病原体の解析」が開始されることになりました。本事業は本年度新たに全国共同利用・共同研究拠点として認定された北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターとの特別共同研究として認められたものです。

昨年4月にメキシコに出現した豚由来 H1N1 インフルエンザウイルスは瞬く間に世界中に広がり、WHO は同年6月、世界的大流行段階を示すフェイズ6を宣言しました。幸い我が国では現在、患者数もほとんど報告がなくなり、もっぱら今秋以降の第2波に備えてワクチン生産等の準備を進めている状況です。

一方、この予想外の H1N1 ウイルスの登場まで、次の新型インフルエンザの最有力候補と目されていた H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルスは、それまでのマスコミ等による異常なほどの関心が急激に薄れ、さらに本年4月からの宮崎県における口蹄疫の大流行によって、国民からも高病原性鳥インフルエンザがすでに過去の病気であるかのように忘れられてしまった感があります。

しかし、一度国外に目を向ければその蔓延状況は以前とほとんど変化していないことがわかります。今年になってすでにアジアを中心とする12カ国で流行が報告され、人の感染例も34名、うち16名の死亡が確認されています(2010年7月現在)。

このような背景下で当センターは引き続き環境省の全国野鳥サーベイランスへの協力やベトナムにおける国際共同疫学調査を実施して参ります。周辺諸国に今尚、感染源が存在する限り、我が国はウイルスの国内侵入に対する警戒を緩める訳には参りません。国内唯一の鳥類感染症の専門機関としてこれからも鳥由来人獣共通感染症の撲滅に向け、スタッフ一同尚一層精進してまいりたいと存じます。引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2. 人員構成と各研究部門における研究内容

(1) 病態学研究部門

- ・野鳥の生息状況・飛翔路調査
- ・野鳥の病原体保有状況調査
- ・異種動物間伝播機序の研究

教授 山口 剛士（平成19年6月1日着任～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(海外研究拠点を活用した新規研究課題)における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に参加している。人獣共通感染症の伝播と拡散における野生鳥類の果たす役割について研究を行っている。

特任教授 小野 悦郎（平成17年4月～平成19年3月専任教授、平成19年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(海外研究拠点を活用した新規研究課題)における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に業務主任者として参加している。また、鳥インフルエンザ抵抗性動物の開発研究を行っている。

講師 笛吹 達史（平成20年4月着任～平成22年3月助教、平成22年4月～現在）

インフルエンザウイルスについて、ウイルス感染動物における免疫誘導機構、鳥種・動物種による病原性の違いに関わる宿主要因をテーマに研究を行っている。鳥類から哺乳類への伝播機序の解明を目指す。また、ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測に参加。

(2) 疾病管理学研究部門

- ・病原性獲得変異の研究
- ・病原微生物の感受性研究
- ・新規抗微生物活性物質の研究

教授 村瀬 敏之（平成17年4月～平成18年3月助教、平成18年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(海外研究拠点を活用した新規研究課題)における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に

分担研究者として参加している。また、鶏卵鶏肉を汚染するサルモネラの生態、病原性および薬剤感受性に関する調査研究を行っている。

特任教授 大槻 公一（平成17年4月～平成18年3月教授、センター長、平成18年4～現在）

「新興・再興感染症に関する海外研究拠点形成プログラム」（文部科学省）により長崎大学熱帯医学研究所がベトナムに形成した拠点において、研究協力者として、同国の野鳥の鳥インフルエンザウイルス汚染状況を調査している。また、抗ウイルス性を持つ新素材「加工ドロマイト」の開発研究を行っている。

助教 尾崎 弘一（平成19年7月着任～現在）

高病原性鳥インフルエンザウイルスに対するワクチン開発を行っている。また、ウイルスタンパクに対する抗体を応用して CNT バイオセンサーの開発、広範囲なウイルス増殖抑制活性を持つ抗体の探索とその応用、分子レベルでの抑制メカニズムを追っている。

(3)分子疫学研究部門

- ・分子疫学情報のデータベース化
- ・遺伝情報交換ネットワークの構築

教授 伊藤 壽啓（平成17年4月～現在、平成18年4月～現在、センター長）

鳥由来人獣共通感染症としての鳥インフルエンザを主な研究対象として、人の新型インフルエンザウイルス出現予測のための宿主域制限因子の解明や、国内に飛来する渡り鳥を中心とした野鳥のウイルス保有状況調査、野生水禽由来インフルエンザウイルスの鶏に対する病原性獲得機構の解明等の研究を実施している。

准教授 伊藤 啓史（平成17年4月～現在）

鳥インフルエンザウイルスおよびニューカッスル病ウイルスの宿主域、病原性に関する研究を行っている。また、各種機関や企業との連携、共同研究により野鳥の鳥インフルエンザウイルス保有状況の調査や抗鳥インフルエンザウイルス素材、製品に関する研究を行っている。

（平成23年3月31日現在）

3. 研究活動

(1) 病態学研究部門

原著論文

- 1) Fujimoto Y, Ito H, Shinya K, Yamaguchi T, Usui T, Murase T, Ozaki H, Ono E, Takakuwa H, Otsuki K, and Ito T: Susceptibility of two species of wild terrestrial birds to infection with a highly pathogenic avian influenza virus of H5N1 subtype. *Avian Pathol*, 39, 95-98, 2010.

- 2) Kasem S, Yu MH, Yamada S, Kodaira A, Matsumura T, Tsujimura K, Madbouly H, Yamaguchi T, Ohya K, and Fukushi H: The ORF37 (UL24) is a neuropathogenicity determinant of equine herpesvirus 1 (EHV-1) in the mouse encephalitis model. *Virology*, 400, 259-270, 2010.

- 3) Lopes-Ramos JC, Tomioka Y, Morimatsu M, Yamamoto S, Ozaki K, Ono E, and Deldado-Garcia JM: Motor-coordination-dependent learning, more than others, is impaired in transgenic mice expressing pseudorabies virus immediate-early protein IE180. *PloS One*, 5(8), e12123, 2010.

- 4) Shivakoti S, Ito H, Murase T, Ono E, Takakuwa H, Yamashiro T, Otsuki K, and Ito T: Development of Reverse Transcription-Loop-Mediated Isothermal Amplification (RT-LAMP) Assay for Detection of Avian Influenza Viruses in Field Specimens. *J Vet Med Sci*, 72(4), 519-523, 2010.

学会発表

- 1) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ono E, Usui T, Tsunekuni R, Ito H, Ozaki H, Yamaguchi T, Ito T, Otsuki K, and Murase T: Molecular epidemiology of avian influenza viruses in wild birds in northern Vietnam. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 2010, Nov. 2010, Hanoi, Vietnam.

(2) 疾病管理学研究部門

著 書

- 1) 大槻公一: 3. ブタインフルエンザの歴史とは. *インフルエンザの最新知識Q&A*, 鈴木宏, 松本慶三編, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2010年.
- 2) 大槻公一: 4. パンデミックと鳥インフルエンザの今後の推移は. *インフルエンザの最新知識Q&A*, 鈴木宏, 松本慶三編, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2010年.
- 3) 大槻公一: コラム トリインフルエンザ. これでわかる インフルエンザ診療のポイント～診断・治療・予防がすっきりわかる～, 藤田次郎編, 南江堂, 東京, 2010年.
- 4) 大槻公一: 新型インフルエンザと鳥インフルエンザ. *地球環境学事典*, 立本成文, 日高敏隆監修, 弘文堂, 東京, 2010年.
- 5) 大槻公一: 伝染性気管支炎. *鳥の病気 : カラーマニュアル*, 第7版, 鶏病研究会編, 鶏病研究会, 東京, 2010年.

原著論文

- 1) Fujimoto Y, Ito H, Shinya K, Yamaguchi T, Usui T, Murase T, Ozaki H, Ono E, Takakuwa H, Otsuki K, and Ito T: Susceptibility of two species of wild terrestrial birds to infection with a highly pathogenic avian influenza virus of H5N1 subtype. *Avian Pathol*, 39, 95-98, 2010.
- 2) Shivakoti S, Ito H, Murase T, Ono E, Takakuwa H, Yamashiro T, Otsuki K, and Ito T: Development of reverse transcription-loop-mediated isothermal amplification (RT-LAMP) assay for detection of avian influenza viruses in field specimens. *J Vet Med Sci*, 72, 519-523, 2010.
- 3) Kitadai N, Ninomiya N, Murase T, Obi T, and Takase K: Salmonella isolated from the feces of migrating cranes at the Izumi Plain (2002-2008): serotype, antibiotic sensitivity and PFGE type. *J Vet Med Sci*, 72, 939-942, 2010.

- 4) Takakuwa H, Maruoka T, Hata T, Miyazawa M, Hata T, Toshimori T, and Otsuki K: Development of a new disinfectant with very strong anti-influenza-viral activity -a preliminary report. *Environ Health Prev Med*, 15, 121-123, 2010.
- 5) Takakuwa H, Yamashiro T, Le MQ, Phuong SL, Ozaki H, Tsunekuni R, Usui T, Ito H, Yamaguchi T, Ito T, Murase T, Ono E, and Otsuki K: Possible circulation of H5N1 avian influenza viruses in healthy ducks on farms in northern Vietnam. *Microbiol Immunol*, 54, 58-62, 2010.
- 6) Tsunekuni R, Ito H, Otsuki K, Kida H, and Ito T: Genetic comparisons between lentogenic Newcastle disease virus isolated from waterfowl and velogenic variants. *Virus Genes*, 40, 252-255, 2010.
- 7) Tsunekuni R, Ito H, Kida H, Otsuki K, and Ito T: Increase in the neuraminidase activity of a nonpathogenic Newcastle disease virus isolate during passaging in chickens. *J Vet Med Sci*, 72, 453-457, 2010.
- 8) Shivakoti S, Itoh H, Otsuki K, and Ito T: Characterization of H5N1 highly pathogenic avian influenza virus isolated from a mountain hawk eagle in Japan. *J Vet Med Sci*, 72, 459-463, 2010.
- 9) Murata H, and Otsuki K: Swine influenza and cytokines: less of a sorm, more of a breeze. *Vet J*, 187, 16-17, 2010.
- 10) Fujimoto Y, Ito H, Shivakoti S, Nakamori J, Tsunekuni R, Otsuki K, and Ito T: Avian influenza virus and paramyxovirus isolation from migratory waterfowl and shorebirds in San-in district of western Japan from 2001 and 2008. *J Vet Med Sci*, 72, 963-967, 2010.
- 11) Ozaki H, Guan Y, Peiris M, Webster R, and Webby R.: Changing patterns of H6 influenza viruses in Hong Kong SAR poultry markets. *Influenza Res Treat*, (IF=1.332), Volume 2011, Article ID 702092, 2011.

総 説

- 1) 村瀬敏之: 採卵鶏および鶏卵のサルモネラ汚染とその対策. *臨床獣医*, 28, 22-26, 2010 年.
- 2) 大槻公一: 鳥インフルエンザウイルス—アジアにおける H5N1 亜型ウイルスの生態. *臨床と微生物*, 37(2), 99-104, 2010 年.
- 3) 大槻公一: 鳥インフルエンザと新型ウイルスの世界的流行(パンデミック). *防菌防黴*, 38(5), 297-307, 2010 年.
- 4) 大槻公一: 高桑弘樹, 常國良太, 井上瑞江, 藪田淑予, 中村保紀, 松下美紀, 山名英明: インフルエンザ対策, 特に高機能付加マスクの有用性. *京産大先端科学技術研究所報*, 9, 103-117, 2010 年.
- 5) 大槻公一: 新型インフルエンザウイルスおよび H5N1 亜型以外の鳥インフルエンザウイルス. *鶏の研究*, 85(7), 20-25, 2010 年.
- 6) 大槻公一: 特集インフルエンザ. ブタ・トリインフルエンザの現状. *小児内科*, 42(9), 1536-1540, 2010 年.
- 7) 大槻公一, 高桑弘樹, 常國良太, 井上瑞江, 藪田淑予: 特集/新型インフルエンザ AH1N1 の流行を振り返って. トリインフルエンザの流行状況. *臨床と研究*, 87(12), 1718-1723, 2010 年.

学会発表

- 1) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Tsunekuni R, Usui T, Ozaki H, Ito H, Yamaguchi T, Ito T, Otsuki K, Murase T, and Ono E: Molecular epidemiology of avian influenza viruses circulating among healthy poultry bred in farms in northern Vietnam. 4th Annual Meeting, EPIZONE, June. 2010, Saint-Malo, France.
- 2) 尾崎弘一, 梶江昭, 高田健次, 松岡保博, 中川恵里香, 村瀬敏之: 大腸菌症に罹患したフロイラー由来大腸菌の病原性に関する検討. 第150回日本獣医学会, 2010年9月, 帯広市.

3) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ono E, Usui T, Tsunekuni R, Ito H, Ozaki H, Yamaguchi T, Ito T, Otsuki K, and Murase T: Molecular epidemiology of avian influenza viruses in wild birds in northern Vietnam. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 2010, Nov. 2010, Hanoi, Vietnam.

4) 宇野有紀子, 笛吹達史, 伊藤啓史, 尾崎弘一, 村瀬敏之, 伊藤壽啓, 山口剛士: ウズラ免疫関連遺伝子の発現解析を目的としたreal-time PCR法によるmRNA定量系の構築. 第149回日本獣医学会, 2010年3月, 武蔵野市.

5) 小尾岳士, 北代典幸, 山下章吾, 村瀬敏之, 高瀬公三: 野生ツル糞便由来大腸菌の薬剤耐性. 第149回日本獣医学会, 2010年3月, 武蔵野市.

(3) 分子疫学研究部門

著 書

1) 伊藤啓史: 第7章インフルエンザ, p109~112, 獣医公衆衛生学実習, 獣医公衆衛生学教育研修協議会編, 学窓社, 東京, 2010

原著論文

1) Tsunekuni R, Ito H, Kida H, Otsuki K, and Ito T: Increase in the Neuraminidase Activity of a Nonpathogenic Newcastle Disease Virus Isolate during Passaging in Chickens. *J Vet Med Sci*, 72(4), 453-457, 2010.

2) Fujimoto Y, Ito H, Shinya K, Yamaguchi T, Usui T, Murase T, Ozaki H, Ono E, Takakuwa H, Otsuki K, and Ito T: Susceptibility of two species of wild terrestrial birds to infection with a highly pathogenic avian influenza virus of H5N1 subtype. *Avian Pathol*, 39(2), 95-98, 2010.

3) Shivakoti S, Ito H, Murase T, Ono E, Takakuwa H, Yamashiro T, Otsuki K, and Ito T: Development of Reverse Transcription-Loop-Mediated Isothermal Amplification (RT-LAMP) Assay for Detection of Avian Influenza

Viruses in Field Specimens. *J Vet Med Sci*, 72(4), 519-532, 2010.

4) Shivakoti S, Ito H, Otsuki K, and Ito T: Characterization of H5N1 Highly Pathogenic Avian Influenza Virus Isolated from a Mountain Hawk Eagle in Japan. *J Vet Med Sci*, 72(4), 459-463, 2010.

5) Fujimoto Y, Ito H, Shivakoti S, Nakamori J, Tsunekuni R, Otsuki K, and Ito T: Avian Influenza Virus and Paramyxovirus Isolation from Migratory Waterfowl and Shorebirds in San-In District of Western Japan from 2001 to 2008. *J Vet Med Sci*, 72(7), 963-967, 2010.

6) Sugiyama M, Ito H, Hata Y, Ono E, and Ito T: Complete nucleotide sequences of avian metapneumovirus subtype B genome. *Virus Genes*, 41(3), 385-95, 2010.

7) Uchida Y, Kanehira K, Mase M, Takemae N, Watanabe C, Ito T, Igarashi M, Ito K, Takada A, Sakoda Y, Okamatsu M, Yamamoto Y, Nakamura K, Kida H, Hiromoto Y, Tsuda T, and Saito T: Genetic characterization and susceptibility on poultry and mammal of H7N6 subtype avian influenza virus isolated in Japan in 2009. *Vet Microbiol*, 147(1-2), 1-10, 2010.

8) Tsunekuni R, Ito H, Otsuki K, Kida H, and Ito T: Genetic comparisons between lentogenic Newcastle disease virus isolated from waterfowl and velogenic variants. *Virus Genes*, 40, 252-255, 2010.

9) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ozaki H, Tsunekuni R, Usui T, Ito H, Yamaguchi T, Ito T, Murase T, Ono E, and Otsuki K: Possible circulation of H5N1 avian influenza viruses in healthy ducks on farms in northern Vietnam. *Microbiol Immunol*, 54, 58-62, 2010.

総 説

1) 伊藤壽啓: 人と動物の共通感染症最前線7: インフルエンザウイルスと野鳥との関わり. *獣医畜新報*, 63(3), 193-196, 2010年.

学会発表

- 1) 藤本佳万, 伊藤啓史, 伊藤壽啓: 野生水禽由来鳥インフルエンザウイルスの鶏継代による病原性獲得機構Ⅱ. 第 25 回中国四国ウイルス研究会, 2010 年 6 月, 岡山市.
- 2) 松村一輝, 伊藤啓史, 伊藤壽啓: ニューカッスル病ウイルスを検出する LAMP 法の開発. 第 25 回中国四国ウイルス研究会, 2010 年 6 月, 岡山市.
- 3) 松村一輝, 伊藤啓史, 伊藤壽啓: ニューカッスル病ウイルスを検出する LAMP 法の開発. 第 44 回鳥取県獣医学会, 2010 年 7 月, 鳥取市.
- 4) 藤本佳万, 伊藤啓史, 伊藤壽啓: 野生水禽由来鳥インフルエンザウイルスの鶏継代による病原性獲得機序. 第 150 回日本獣医学会学術集会, 2010 年 9 月, 帯広市.
- 5) 内田裕子, 渡辺千晶, 竹前喜洋, 林豪士, 伊藤壽啓, 西藤岳彦: H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザ表面抗原保有インフルエンザウイルスの内部遺伝子を組合せたウイルスの増殖性及び感染鶏の生存性・遺伝子応答への影響. 第 58 回日本ウイルス学会学術集会, 2010 年 11 月, 徳島市.
- 6) 井上瑞江, 高桑弘樹, 常國良太, 藪田淑子, 伊藤壽啓, 大槻公一, 中田博: ニワトリ気道上の鳥インフルエンザウイルス結合蛋白質の検索. 第 58 回日本ウイルス学会学術集会, 2010 年 11 月, 徳島市.
- 7) 内田裕子, 渡辺千晶, 竹前喜洋, 林豪士, 伊藤壽啓, 西藤岳彦: インフルエンザウイルス内部遺伝子の病原性発現への関与と感染宿主応答に関する研究. 第 150 回日本獣医学会学術集会, 2010 年 9 月, 帯広市.
- 8) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ono E, Usui T, Tsunekuni R, Ito H, Ozaki H, Yamaguchi T, Ito T, Otsuki K, and Murase T: Molecular epidemiology of avian influenza viruses in wild birds in northern Vietnam. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 2010, Nov. 2010, Hanoi, Vietnam.

4. 学術賞等の受賞

- 1) 伊藤壽啓: 平成 22 年度鳥取県獣医師会功労賞 2010 年 5 月 23 日

5. その他の研究活動

(1) 国際共同研究・共同調査

- 1) 学術交流協定締結(大韓民国国立動物検疫科学院) 平成 16 年～現在
- 2) 学術交流協定締結(大韓民国建国大学) 平成 17 年～現在
- 3) 科学技術振興費「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」インフルエンザコンソーシアム「ベトナムにおけるワクチン導入後の H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルスの抗原変異と流行動態に関する研究」ベトナム社会主義共和国 平成 22 年

6. 広報活動

(1) 講演等

- 1) 大槻公一: 新型インフルエンザウイルスと鳥インフルエンザウイルス. 日立アプライアンス主催「日立「西日本特約・販売店様」販売会議セミナー」, 2010 年 5 月, 大阪市.
- 2) 村瀬敏之: 口蹄疫ウイルスと日本における口蹄疫の発生について. 鳥取県獣医師会口蹄疫技術研修会, 2010 年 6 月, 鳥取市.
- 3) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザと口蹄疫の基礎知識. 農林水産省北陸農政局平成 22 年度家畜伝染病防疫合同訓練講演, 2010 年 8 月, 富山市.
- 4) 村瀬敏之: 最近の大腸菌症. 平成 22 年度秋季全国鶏病技術研修会シンポジウム, 2010 年 10 月, 出雲市.
- 5) 伊藤壽啓: 鳥インフルエンザの疫学と対策. 平成 22 年度秋季全国鶏病技術研修会シンポジウム「最近話題の系病の疫学と対策」, 2010 年 10 月, 出雲市.

- 6) 大槻公一: 新型インフルエンザ(2009)の総括と今年のインフルエンザ予防対策. 株式会社ウイズ主催医療介護関係者のための冬の健康管理とインフルエンザ勉強会, 2010年10月, 大阪市.
- 7) 大槻公一: 新型インフルエンザウイルスと鳥インフルエンザ. 山口大学農学部獣医学科特別セミナー, 2010年10月, 山口市.
- 8) 大槻公一: 鳥インフルエンザ, 口蹄疫ってどういう病気. 京都府 知って得 とり・たまごの集い, 2010年10月, 綾部市.
- 9) 大槻公一: 最近の鳥インフルエンザの現状. 大阪府畜産会自衛防疫研修会, 2010年11月, 大阪市.
- 10) 大槻公一: 鳥インフルエンザ, 口蹄疫ってどういう病気. 京都府 知って得 とり・たまごの集い, 2010年11月, 京都市.
- 11) 大槻公一: 中海で越冬する渡り鳥と鳥インフルエンザウイルス. 鳥取大学産学・地域連携推進機構大山・日野川・中海学協会セミナー, 2010年11月, 鳥取市.
- 12) 大槻公一: 島根県での発生状況など鳥インフルエンザについて. 京都府府民への緊急情報伝達研究会(特別編), 2010年12月, 京都市.
- 13) 山口剛士: ワクモの分子系統解析と感染症の媒介. 養鶏飼養環境改善技術推進事業に係る卵用鶏ワクモ対策技術研修会講演, 2010年, 高松市.
- 14) 山口剛士: ワクモの分子系統解析と感染症の媒介. 養鶏飼養環境改善技術推進事業に係る卵用鶏ワクモ対策技術研修会講演, 2010年, 神奈川.
- 15) 大槻公一: 高病原性鳥インフルエンザの出現予測や流行予測, 国内侵入経路の解明」及び「高病原性鳥インフルエンザの国内外での防疫体制. 群馬県畜産協会高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会. 2011年2月, 前橋市.
- 16) 大槻公一: 鳥インフルエンザの流行状況. (社)日本しろあり対策協会関西支部主催 第43回(平成23年度)支部通常総会. 2011年2月, 大阪市.

(2)新聞雑誌等掲載

- H22. 5.10 【この人に聞け】 鳥取大学農学部伊藤壽啓教授
「新型インフルエンザに備える」 通常インフルエンザ対応の徹底を
日本海
- H22.11.18 サイエンスアカデミーへのいざない 鳥インフルを分かりやすく紹介
(大槻公一鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター特任教授)
日本海
- H22.12. 1 鳥インフルエンザ関係
(鳥取大学農学部伊藤壽啓教授, 山口剛士教授,大槻公一特任教授)
毎日, 山陰中央, 日本海, 読売, 日本経済
- H22.12. 1 北からの野鳥が運ぶ? 専門家「鶏舎への侵入防ぐしか」
(鳥取大学鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター山口剛士教授)
朝日
- H22.12. 2 鳥インフルエンザ関係
(鳥取大学農学部伊藤壽啓教授、山口剛士教授) 毎日, 読売
- H22.12. 3 鳥インフルエンザ関係
(鳥取大学農学部伊藤壽啓教授、山口剛士教授)
日本海, 山陰中央, 読売
- H22.12. 3 養鶏農家3軒 卵出荷へ
境港・米子2検査陰性 知事「風評被害防がねば」
(鳥取大学獣医学科山口剛士教授) 朝日
- H22.12. 4 鳥インフルエンザ関係 山陰中央
- H22.12. 4 島根・鳥インフル 北海道新感染路か 野鳥の越冬地警戒
(伊藤壽啓鳥取大教授) 朝日
- H22.12. 6 鳥インフルエンザ関係 (大槻公一鳥取大学特任教授) 産経
- H22.12. 9 鳥インフル疫学調査チーム初会合 (伊藤壽啓鳥取大学教授)
山陰中央, 毎日, 日本海

H22.12.10	鳥インフルエンザ関係 (伊藤壽啓鳥取大学農学部教授)	読売
H22.12.18	鳥インフルエンザ関係(富山)	日本海, 山陰中央
H22.12.19	鳥インフルエンザ関係(米子)	日本海
H22.12.19	野鳥、鳥インフル 鳥取 先月発生地から7キロ	朝日
H22.12.20	鳥インフルエンザ関係(米子)	日本海, 産経, 読売
H22.12.20	鳥インフル 監視区域 感染の疑いなし 県、「今後も注意を」	朝日
H22.12.21	鳥インフルエンザ関係	毎日, 日本海
H22.12.22	鳥インフルエンザ関係	日本海, 読売
H22.12.24	マナヅルも感染疑い 鹿児島・鳥インフル	日本海
H22.12.24	マナヅルも陽性 出水・鳥インフル 絶滅危惧種	朝日
H22.12.25	鳥インフル移動制限解除へ (鳥取大農学部伊藤壽啓教授)	朝日, 日本海
H22.12.26	鳥インフルエンザ関係 (鳥取大学農学部伊藤壽啓教授)	日本海, 山陰中央, 毎日
H22.12.27	感染ハクチョウ、ツル・・・ 野鳥検査殺到	朝日
H22.12.28	鳥インフルエンザ関係	山陰中央, 読売
H22.12.28	鳥インフル 移動制限解除 養鶏農家一安心 県、監視は継続 (鳥取大学鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター 伊藤壽啓センター長)	朝日
H22.12.30	鳥インフル対策会議 「爆発的感染 予兆ない」 (鳥取大学伊藤壽啓教授)	産経, 朝日, 日本海
H23. 1.13	鳥インフルエンザ関係	日本海
H22. 1.13	別の1羽も感染 鹿児島の鳥インフル	朝日
H23. 1.26	鳥インフルエンザ関係	日本海

H22. 1.26	松江 野鳥から強毒性 鳥インフル警戒強化	朝日
H23. 1.27	鳥インフルエンザ関係	読売
H23. 1.31	鳥インフルエンザ関係	読売
H23. 2. 2	鳥インフルエンザ関係	産経, 日本海, 朝日, 山陰中央
H23. 2. 4	相次ぐ鳥インフルエンザ 山口剛士鳥大教授に聞く	山陰中央
H23. 2. 4	鳥インフルエンザ関係	日本海
H23. 2. 9	鳥インフルエンザ関係	毎日
H22. 2. 9	フクロウ鳥インフル疑い 徳島	朝日
H23. 2.10	鳥インフルエンザ関係	産経
H22. 2.10	フクロウが陽性 徳島、高病原性検出	朝日
H23. 2.18	徳島のフクロウ ウイルス強毒性	朝日
H23. 2.18	京都のハヤブサ 高病原性を検出	朝日
H23. 2.22	野鳥 6羽に鳥インフルウイルス 全養鶏場 改めて県調査へ (鳥取大学獣医学科山口剛士教授)	朝日
H23. 2.22	鳥取の野鳥 鳥インフル 米子など、6羽検出	朝日
H23. 2.25	鳥インフルエンザ関係	読売
H23. 3. 1	鳥インフルエンザ関係	朝日, 山陰中央
H23. 3. 3	鳥インフルエンザ関係	産経
H23. 3.11	鳥インフルエンザ関係	山陰中央
H23. 3.29	鳥インフルエンザ関係	山陰中央, 毎日

(3)TV取材出演等

H22.11.30	鳥インフルエンザ関係 (伊藤壽啓教授・山口剛士教授)	日本海
-----------	----------------------------	-----

H22.12. 2	鳥インフルエンザ関係 (伊藤壽啓教授・山口剛士教授)	BSS
H22.12. 3	鳥インフルエンザ関係 (伊藤壽啓教授・山口剛士教授)	日本海
H22.12.18	鳥インフルエンザ関係 (伊藤壽啓教授)	日本海, NHK
H22.12.19	おはよう日本:鳥インフル米子で検出 (鳥取県会議に鳥取大学農学部伊藤教授)	NHK 全国
H22.12.20	鳥インフルエンザ関係 (伊藤壽啓教授)	日本海, NHK
H22.12.27	鳥インフルエンザ関係 (伊藤壽啓教授)	BSS
H23. 1.28	米子で野鳥から鳥インフル検出 (鳥取大学農学部山口剛士教授)	日本海
H23. 2.22	鳥インフルエンザ関係	NHK, 日本海
H23. 3. 1	鳥インフルエンザ関係	NHK, BSS
H23. 3. 4	鳥インフルエンザ関係	NHK

7. 社会貢献

伊藤壽啓: 平成 9 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事

伊藤壽啓: 平成 19 年度～現在 農林水産省食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会家さん疾病小委員会委員

伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 鳥取県防災危機管理委員会委員

伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 環境省第3回鳥インフルエンザ等野鳥に係る専門家グループ会合メンバー

伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 農林水産省委託プロジェクト「鳥インフルエンザ、BSE・口蹄疫等の効率的なリスク低減技術の開発」研究推進会議外部専門家

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 農林水産省高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チーム座長

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 とっとり防災危機管理研究会メンバー

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 鳥取県新型インフルエンザ対策本部会議顧問

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 鳥取県環境衛生研究所研究評価委員

伊藤壽啓: 平成 22 年度 鳥取県食の安全推進委員会委員長

伊藤壽啓: 平成 22 年度 農林水産省動物用インフルエンザワクチン国内製造用株
選定委員会委員

山口剛士: 平成 20 年度～現在 鳥取県畜産技術業績発表会審査員

山口剛士: 平成 21 年度～現在 養鶏飼養環境改善推進事業に係るワクモ対策
専門委員会委員

山口剛士: 平成 22 年度 鳥取県口蹄疫初動防疫連絡会議

山口剛士: 平成 22 年度 日本野生動物医学会編集委員

村瀬敏之: 平成 19 年度～現在 鶏病研究会専門委員

村瀬敏之: 平成 20 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事

村瀬敏之: 平成 21 年度～現在 日本獣医学雑誌編集委員

村瀬敏之: 平成 21 年度～現在 獣医事審議会試験部会専門委員

村瀬敏之: 平成 22 年度 抗菌性物質薬剤耐性菌評価情報整備事業委員

大槻公一: 平成 3 年度～現在 日本獣医学会 評議員, 編集委員長

大槻公一: 平成 4 年度～現在 鳥取県食鳥肉衛生協会理事

大槻公一: 平成 5 年度～現在 世界鶏病学会(World Veterinary Poultry
Association) International Advisory Board, 日本支部長

大槻公一: 平成 9 年度～現在 鶏病研究会 理事

大槻公一: 平成 16 年度～現在 京都府高病原性鳥インフルエンザ対策専門家
会議委員

大槻公一: 平成 16 年度～現在 鳥取県衛生環境研究所研究評価者

大槻公一：平成 18 年度～現在 京都府・京都市新型インフルエンザ対策専門家
会議委員

大槻公一：平成 18 年度～現在 京都府広域防疫対策センターに係る専門家チーム
委員

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター：平成 20 年度～現在 環境省野鳥に
おける高病原性鳥インフルエンザに係る検査

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター：平成 22 年度 農林水産省家禽農場に
おける高病原性鳥インフルエンザに係る検査（H5N1 9 県 14 農場）

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター年報 第4号
(2010年版)

発 行 日 平成23年4月1日

編 集 ・ 発 行 国立大学法人鳥取大学農学部附属
鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
〒680-8553
鳥取市湖山町南4丁目101番地
(代表者) センター長 伊藤 壽啓
Tel. & Fax. 0857-31-5437

印 刷 中央印刷株式会社
〒689-1121
鳥取市南栄町34番地
Tel. 0857-53-2221 Fax. 0857-53-2201
